

県のたより (2006年9月号 No. 603)

— 編集・発行／神奈川県 県民部 広報県民課 —



「障害者雇用の促進」 神奈川県知事 松沢成文

ともに明日へ

9月は「障害者雇用支援月間」です。今回は、神奈川県における障害者雇用の現状と雇用の促進への取り組みをご紹介します。

◆ 障害者雇用の現状

昨年12月、県内の民間企業での障害者雇用率(平成17年6月1日現在)が発表されました。その数値は「1.37%」。これは全国47都道府県の中で最も低く、障害者雇用促進法で義務付けられている法定雇用率(1.8%)を0.43ポイントも下回るものでした。

今、県内では、「職業人として自立したい」という強い思いを持ち、仕事に就くために懸命な努力を重ねているものの、その機会に恵まれない障害者の方々が大量にいらっしゃいます。今年3月末時点で、実に約9千人もの障害者の方々が求職活

動を続けています。

こうした状況を打開し、障害者の方々に就職の道を開くため、県では、国や労働団体、使用者団体と連携しながら支援を行っていますが、何よりも重要なことは、民間企業の皆さんが障害者の自立について理解を深め、積極的な雇用を進めてくださることです。

◆ 民間での取り組み

幸いに、今、民間ではさまざまな支援活動が展開されています。

その一つが知的障害者の福祉工場「しんわろネッサンス」です。この工場では、大手自動車メーカーの協力を得て、知的障害のある従業員の皆さんが自動車部品の組み立て加工を行っています。今年4月、私は「ウイークリー知事現場訪問」で

ここを訪問しましたが、この福祉工場が、企業だけでなく地域住民の皆さんからも信頼され、支えられていることに感激しました。多くの温かい目に見守られながら、障害者の皆さんが実に明るく、生き生きと働いている姿が大変印象的でした。

また、先月訪問したNPO法人「障害者雇用部会」では、特例子会社設立のための企業支援など、全国的にも注目される活動を展開しています。特例子会社の経営者との意見交換を通じ、障害者雇用における企業の皆さんの熱意を改めて実感しました。

障害のある人もない人も同じ社会の一員として共に暮らしていく、そうした心豊かな地域社会を築いていくため、障害者の自立と社会参加への理解を深め、一人でも多くの障害者の就職が実現できるよう取り組んでいきたいと考えています。